

お
彼
岸

SAMP

私一人のためであった

出現は

親鸞聖人の
しんらんしょうにん

Shinran Shonin came into this world for my benefit alone.

真宗教団連合2023年法語カレンダーより

2023(令和5)年
慶讃法要日程



ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人 御誕生

50
立教開宗
800

第1期

3月29日(水)～4月 3日(月)

第2期

4月10日(月)～4月15日(土)

第3期

4月24日(月)～4月29日(土)

第4期

5月 6日(土)～5月11日(木)

第5期

5月16日(火)～5月21日(日)

本願寺(西本願寺)にて修行

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)

兵庫教区委員会

「生きる意味」

文化人類学者の上田紀行著^{うえだのりゆき}『生きる意味』（岩波新書九三二）という本は「私たちがいま直面しているのは〈生きる意味の不況〉である」に始まり、「紙も鉛筆もコンピューターもある。しかし道具はふんだんにあっても、それを使つて夢を描くことができない社会。一生懸命働き、社会に貢献してきた人たちが、自分たちはもはや価値はないと思われ、老後の不安に駆られるような社会。どう考えてもおかしくはないか」と続きます。二〇〇五年発行ですが、今日いよいよ色濃くなっているのではないかと考えさせられます。続いて、心惹かれたのは、「私たちをこれまで支えてきた確かなものが、いまや崩壊しつつあるのではないか」と。

私たちは何かを失い、何かを忘れてしまっているのではないかと自分自身のこととして考えさせられます。

親鸞聖人のお手紙の中に「南無阿弥陀仏にあひまゐらせたまふこそ、ありがたく、めでたく候^{そうろう}ふ御果報^{ごかほう}にては候^{そうろう}ふなれ。」（『親鸞聖人御消息』、『註釈版』七四三頁）とあります。私訳ですが「南無阿弥陀仏のお念仏に出遇えたことこそが、たぐいまれな尊い果報なのです」と頂いています。

親鸞聖人がこのように言われたのは、阿弥陀さまの本願が常に私たちを支え、「決して捨てない」という名告りが「南無阿弥陀仏」のお念仏となつて、私の口に現れてくださっているからです。

親鸞聖人は、本願に支えられてお念仏申す人生に出遇っていくことを、人生の果報と言われました。

支えられてあることを忘却し生きる私を捨てず、支えになって私の口からお念仏となつて出てくださるのが「南無阿弥陀仏」のお念仏です。果報者とは、自分の口からでてくださる「南無阿弥陀仏」を聞かせていただき、いま支えられてあることを知らされ、阿弥陀さまの本願を聞きつつ生きる者のすがたなのです。

そこに「生きる意味」があると私は思うのです。



神明組慈照寺 藤田眞哲